



新正会 北田 守 議員

ゼロカーボンシティ宣言について

問 昨年、本市では、地球温暖化対策として、ゼロカーボンシティ宣言を県下でもいち早く宣言しました。マスコミでも大きく取り上げられましたが、これからの取組について市長の考えを伺います。

答 市長 昨年の6月定例会において、二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組むことを宣言し、市民の未来を後世につなげるため、オールさんむで取り組むことを決意しました。

そして、今年3月には、行政のあらゆる分野での取組を推進するため、市内にゼロカーボン推進チームを立ち上げ、本市の特性や課題を踏まえた検討を開始しているところです。

今後は、ゼロカーボンを社会や暮らし

しの中に取り入れた脱炭素社会を実現するための総合的かつ計画的な施策を策定し、再生エネルギー資源の活用や公共交通への低炭素モビリティの導入を推進していくとともに、オールさんむで「2050年 二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指します。

問 「2050年 二酸化炭素排出量実質ゼロ」とはどのようなことか伺います。

答 建設環境部長 二酸化炭素の排出量を、今後、自然環境における吸収量と同等まで減らすことをいいます。二酸化炭素排出量実質ゼロへの取組としては、電気の節電など、人の活動に伴って発生する二酸化炭素の量を減らし、森林などの吸収源による除去量との均衡が取れた脱炭素社会を目指すこととなります。

問 温室効果ガス削減のため、個人でチップ化している方もいますが、チップ化するための機材購入に対する補助制度について、市で検討しているか伺います。

答 建設環境部長 本来、廃棄物として処分されている枝葉等がチップ化により、堆肥化や土壌改良材へと資源化することは、ごみの減量になり、環境保全対策としては効果的な取組であると考えます。

現時点では、環境保全対策として

チップ化する機材への補助制度はありませんが、農業用廃棄物のみならず、廃棄物全般におけるごみの減量・資源化が今後促進されるような社会の仕組みの中で、この補助制度についても検討する必要があると思いますので、先進事例等を参考に調査研究していきたいと考えています。



広域農道について

問 大網白里市から東金市、九十九里町を通り、山武市草深地先、松尾町広根地先を抜け、横芝光町の旧横芝町地域までの区間を事業区域として工事が実施され、大半の部分で工事が完成していますが、白幡地先から作田川を越えた東金市までの区間が、いまだ

に開通になっていません。
作田川の橋りょう工事など、現在の事業の進捗状況と今後の見通しについて伺います。

答 建設環境部長 ご質問の道路は、大網白里市清水地先を起点に、横芝光町北清水地先を終点とする広域農道で、総延長が21・18kmあり、山武市が管理する区間は約7kmとなっています。

山武市本須賀地先から東金市東中地先までの約14kmが通行できない状態になっています。そのうち、半分の70mが山武市区間で、工事は完了していますが、道路開放した場合、大型車両の主要道路への迂回が難しく、また、生活道路への車両進入抑制など、周辺地域の道路事情を考慮し、供用開始に至っていません。

そして、残りの700mが東金市区間および九十九里町区間となりますが、東金市が事業主体となって道路改良工事が行われています。一部、用地交渉が難航していると聞いていますが、継続的に道路改良事業が行われています。

今後の予定では、令和3年度と令和4年度は道路改良工事を行い、令和5年度からの4か年で作田川に架かる橋りょう工事を実施する計画になっており、事業が順調に進んだ場合、令和9年度が全線開通の目標とされています。